

第45期 報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日



(弥陀ヶ原)

立山貫光ターミナル株式会社

23年度事業概況 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に、富山側は立山～弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町～室堂間が営業を再開し、4月16日には、立山～信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

当期の営業の経過は、ホテル立山と弥陀ヶ原ホテルでは、4、5月は震災による旅行自粛の影響を受け大幅に落ち込みましたが、6月以降は昨年を上回る成績に転じ、猛暑の続いた7、8月は好調に推移いたしました。しかし、8月下旬以降天候不順が続き、9月は2度の台風上陸で2回の3連休も伸び悩みました。10月にかけての紅葉期も、週末の悪天候が響き、低調に終わりました。また、アルペンルートの入り込み減の影響も加わり、売店、レストランの収入も振るいませんでした。

その結果、ホテル立山の宿泊人員は、29,797人(対前年92%)、宿泊収入は対前年94%となりました。また食堂収入は、対前年83%、売店収入は対前年85%となり、収入合計では対前年88%となりました。

また、弥陀ヶ原ホテルの宿泊人員は、13,128人(対前年89%)、宿泊収入は対前年85%となりました。また食堂収入は、対前年111%、売店収入は対前年75%となり、収入合計では対前年86%になりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、4、5月はやはり震災の影響で低調に推移したものの、6月以降8月までは好調に転じました。しかし、9月以降は天候不順等の影響で伸び悩み、1月は地元の利用などで前年を上回ったものの、2月は雪の影響で落ち込み、3月も前年を下回る結果で終わりました。

これにより、宿泊人員は、25,293人(対前年90%)、宿泊収入は対前年86%、売店等を加えた収入合計では、対前年87%となりました。

この結果、当期の売上高は、ホテル立山宿泊収入6億28百万円(対前年94%)、弥陀ヶ原ホテル収入2億91百万円(対前年86%)、宇奈月国際ホテル収入4億64百万円(対前年87%)、室堂飲食及び物品販売収入8億13百万円(対前年84%)となり、これにビル賃貸収入1億74百万円(対前年100%)を加えた売上高合計は23億69百万円(対前年88%)となりました。

さらに営業外収益12百万円を加えた収益合計は23億81百万円(対前年88%)となった次第であります。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めた結果、これに営業外費用を加えた費用合計は25億15百万円(対前年91%)となりました。

以上により、当期の経常損失は1億34百万円となり、これに特別損失、法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を減じて、当期純損失は2億64百万円を計上することとなりました。

ホテル立山宿泊営業成績表（平成23年度）

| 項 目 | 実 績 | 前年比% |
|-------------|---------|------|
| 営 業 日 数 | 235 | 100 |
| 宿 泊 人 員 | 29,797 | 92 |
| 一日平均宿泊者数 | 127 | 91 |
| 営 業 収 入 | 627,559 | 94 |
| 宿 泊 収 入 | 625,151 | 94 |
| 雑 収 入 | 2,409 | 90 |
| 一 日 平 均 収 入 | 2,670 | 94 |
| 客 室 数 | 85 | 100 |
| 延 使 用 客 室 数 | 12,895 | 93 |
| 客 室 回 転 率 | 65 | 93 |
| 宿 泊 定 員 | 265 | 100 |
| 宿 泊 効 率 | 48 | 92 |

（備考）営業期間(当期)：平成23年4月10日～平成23年11月30日(宿泊日数234日)

営業期間(前期)：平成22年4月10日～平成22年11月30日(宿泊日数234日)

弥陀ヶ原ホテル営業成績表（平成23年度）

| 項 目 | 実 績 | 前年比% |
|-------------|---------|------|
| 営 業 日 数 | 211 | 100 |
| 宿 泊 人 員 | 13,128 | 89 |
| 一日平均宿泊者数 | 63 | 90 |
| 営 業 収 入 | 290,948 | 86 |
| 宿 泊 収 入 | 236,799 | 85 |
| 雑 収 入 | 656 | 64 |
| 食 堂 収 入 | 29,256 | 111 |
| 売 店 収 入 | 24,237 | 75 |
| 一 日 平 均 収 入 | 1,379 | 87 |
| 客 室 数 | 52 | 100 |
| 延 使 用 客 室 数 | 5,768 | 89 |
| 客 室 回 転 率 | 53 | 90 |
| 宿 泊 定 員 | 176 | 100 |
| 宿 泊 効 率 | 36 | 90 |

（備考）営業期間(当期)：平成23年4月10日～平成23年11月6日(宿泊日数210日)

営業期間(前期)：平成22年4月10日～平成22年11月7日(宿泊日数211日)

室堂飲食及び物品販売業営業成績表（平成23年度）

| 項 目 | 実 績 | 前年比% |
|-------------|---------|------|
| 営 業 日 数 | 235 | 100 |
| 室 堂 到 達 人 員 | 625,952 | 79 |
| 営 業 収 入 | 812,540 | 84 |
| 食 堂 収 入 | 233,304 | 83 |
| 喫 茶 収 入 | 87,835 | 82 |
| 売 店 収 入 | 486,200 | 85 |
| 雑 収 入 | 5,202 | 86 |
| 一 日 平 均 収 入 | 3,458 | 84 |
| 営業収入/室堂到達人員 | 1,298 | 106 |

（備考）営業期間(当期)：平成23年4月10日～平成23年11月30日

営業期間(前期)：平成22年4月10日～平成22年11月30日

宇奈月国際ホテル営業成績表（平成23年度）

| 項 目 | 実 績 | 前年比% |
|----------|---------|------|
| 営 業 日 数 | 366 | 100 |
| 宿 泊 人 員 | 25,293 | 90 |
| 一日平均宿泊者数 | 69 | 88 |
| 営 業 収 入 | 464,167 | 87 |
| 宿 泊 収 入 | 361,894 | 86 |
| 追加飲食収入 | 33,689 | 93 |
| 施設利用収入 | 9,448 | 91 |
| 日帰り収入 | 19,796 | 96 |
| 売店収入 | 34,379 | 82 |
| 雑収入 | 4,960 | 93 |
| 一日平均収入 | 1,268 | 87 |
| 客 室 数 | 64 | 100 |
| 延使用客室数 | 9,492 | 87 |
| 客室回転率 | 41 | 87 |
| 宿 泊 定 員 | 304 | 100 |
| 宿 泊 効 率 | 23 | 92 |

（備考）営業期間(当期)：平成23年4月1日～平成24年3月31日

営業期間(前期)：平成22年4月1日～平成23年3月31日

財産および損益の状況の推移

| 区 分 | 第 4 2 期 (平成20年度) | 第 4 3 期 (平成21年度) | 第 4 4 期 (平成22年度) | 第 4 5 期(当期) (平成23年度) |
|----------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------------------|
| 売 上 高 (千円) | 2,251,497 | 2,772,207 | 2,679,582 | 2,368,838 |
| 当期純利益(損失)(千円) | 42,720 | 32,797 | △60,931 | △264,443 |
| 1株当たり当期純利益(損失) | 47円46銭 | 36円44銭 | △67円70銭 | △293円82銭 |
| 総 資 産 (千円) | 1,859,388 | 1,978,696 | 1,913,541 | 1,662,328 |

平成24年度の取り組み

1 販売の強化

セールス部門においては、ホテル3館それぞれの特徴と課題を踏まえた営業、宣伝活動を展開いたします。

開業40周年を迎えるホテル立山においては、大手旅行代理店へのセールスと連携の強化、高品質商品の増販、閑散期の販売強化を進めます。

弥陀ヶ原ホテルでは、知名度の浸透を含めたブランドの強化を目標に、ホテル立山との差別化、ラムサール条約登録候補地などの話題を活用した施策の推進、姉妹館とのセット商品の造成や、訪日旅客の受入を積極的に進めてまいります。

宇奈月国際ホテルについては、都市圏での販路拡大と地元セールスの強化、大手旅行代理店との連携強化、訪日旅客の受け入れをはかって参ります。

また、インターネット予約の増加、旅客の個人化を踏まえ、情報発信力と販売促進力の強化をはかるため、24年度営業に合わせ、ホテル3館が共同してホームページの改修を行いました。今後はきめ細やかな情報の発信と、適時適切な商品の提供、予約システムの利便性の向上により、顧客の増加に結びつけてまいります。

また各館それぞれの立地条件、自然環境を活かした特徴あるイベントや企画、演出により、誘客促進をはかって参ります。

食堂部門、売店部門におても、地域性を活かしたオリジナルメニューや商品を投入し、収益の確保に力を注いでまいります。

2 顧客満足度の向上、宿泊・食品の安全確保

基本的な接客姿勢の徹底をはかるとともに、各館の特徴を踏まえたサービスの向上を通じて、顧客満足度の向上を図り、リピーターの確保に努めてまいります。

また、施設設備・食品の安全には今後とも万全を尽くしてまいります。当社では、施設の日常点検と整備および食品の衛生管理と仕入食材の品質管理を徹底し、お客様に安心、信頼してご利用いただけるよう努めてまいります。

これからも、佐伯初代社長を始めとする幾多の先人の方々の、アルペンルート創業にかけた理想と理念を受け継ぎ、積極的な誘客促進と、安全かつ満足度の高い受け入れ態勢の構築によって、世界に誇る国際山岳観光地「立山黒部アルペンルート」ブランドの確立に全力を傾注してまいります。

今後とも、株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(平成24年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科目 | 金額 | 科目 | 金額 |
|---------------|--------------|-----------------|--------------|
| (資産の部) | | (負債の部) | |
| 流動資産 | 465 | 流動負債 | 229 |
| 現金及び預金 | 367 | 支払手形 | 14 |
| 売掛金 | 4 | 買掛金 | 17 |
| 未収金 | 22 | 短期借入金 | 100 |
| 商品 | 1 | 未払金 | 20 |
| 貯蔵品 | 46 | 未払費用 | 9 |
| 前払金 | 4 | 未払法人税等 | 3 |
| 繰延税金資産 | 16 | 未払消費税等 | 8 |
| その他 | 1 | 前受金 | 1 |
| 固定資産 | 1,196 | 預り金 | 7 |
| 有形固定資産 | 1,016 | 賞与引当金 | 45 |
| 建物 | 571 | 固定負債 | 403 |
| 建物附属設備 | 163 | 退職給付引当金 | 396 |
| 構築物 | 88 | 役員退職慰労引当金 | 3 |
| 機械及び装置 | 19 | 環境対策引当金 | 2 |
| 車両及び運搬具 | 8 | 負債合計 | 633 |
| 器具及び備品 | 45 | (純資産の部) | |
| 土地 | 119 | 株主資本 | 1,105 |
| 無形固定資産 | 9 | 資本金 | 900 |
| ソフトウェア | 8 | 利益剰余金 | 205 |
| 電話等加入権 | 1 | その他利益剰余金 | 205 |
| 投資その他の資産 | 170 | 繰越利益剰余金 | 205 |
| 投資有価証券 | 101 | 評価・換算差額等 | △ 76 |
| 関係会社株式 | 35 | その他有価証券評価差額金 | △ 76 |
| その他 | 34 | 純資産合計 | 1,028 |
| 資産合計 | 1,662 | 負債・純資産合計 | 1,662 |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。また、消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

損益計算書の要旨

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(単位：百万円)

| 科目 | 金額 |
|-----------------|--------------|
| 売上高 | 2,368 |
| 売上原価 | 631 |
| 売上総利益 | 1,737 |
| 販売費及び一般管理費 | 1,882 |
| 営業損失 | 145 |
| 営業外収益 | 12 |
| 経常損失 | 133 |
| 特別利益 | 28 |
| 税引前当期純損失 | 105 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 1 |
| 法人税等調整額 | 157 |
| 当期純損失 | 264 |

株主資本等変動計算書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位：百万円)

| | 株主資本 | | | | | 純資産合計 |
|---------------------|------|----------|---------|--------|------------------------------|-------|
| | 資本金 | 利益剰余金 | | 株主資本合計 | 評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金 | |
| | | その他利益剰余金 | 利益剰余金合計 | | | |
| | | 繰越利益剰余金 | | | | |
| 前期末残高 | 900 | 469 | 469 | 1,369 | △73 | 1,295 |
| 当期変動額 | | | | | | |
| 当期純利益 | | △264 | △264 | △264 | | △264 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) | | | | | △2 | △2 |
| 当期変動額合計 | - | △264 | △264 | △264 | △2 | △267 |
| 当期末残高 | 900 | 205 | 205 | 1,105 | △76 | 1,028 |

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

会社概要／役員

(平成24年3月31日現在)

●設立年月日

昭和42年12月24日

●資本金

9億円

●発行済株式総数

900,000株

●株主数

2名

立山黒部貫光株式会社
富山地方鉄道株式会社

●役員

代表取締役社長

佐伯 博

専務取締役

佐川 栄

常務取締役

経営企画室長

堀内和夫

常務取締役

営業推進部長

永崎泰雄

取締役

川岸 宏

取締役

技術環境部長

石谷吉孝

取締役

総務部長

新森雅夫

監査役

松岡 彰

監査役

稲田祐治

※常務取締役堀内和夫は平成24年3月31日をもって取締役を退任いたしました。

アルペンルートと会社のあゆみ

| | |
|-------------|----------------------------------|
| 昭和27年 4月 1日 | 立山開発鉄道株式会社（TKR）設立（資本金2,500万円） |
| 29年 8月13日 | 鋼索線（千寿ヶ原～美女平）営業開始 |
| 30年 7月 1日 | 高原バス（美女平～弘法）営業開始 |
| 31年10月 4日 | 弥陀ヶ原ホテル営業開始（TKR） |
| 35年 5月 8日 | 立山黒部有峰開発株式会社（TKA）設立 |
| 39年 6月20日 | 高原バス全線（美女平～室堂）営業開始 |
| 8月 1日 | 関電トンネルトロリーバス（扇沢～黒部ダム）営業開始 |
| 11月 7日 | TKA第34回取締役会で新会社（TKK）設立を決議 |
| 12月25日 | 立山黒部貫光株式会社（TKK）設立（資本金4億円） |
| 42年12月24日 | 立山貫光ターミナル株式会社（TKT）設立（資本金3,000万円） |
| 44年 5月 8日 | 室堂ターミナルビル建設工事着工 |
| 7月20日 | 黒部ケーブルカー（黒部湖～黒部平）営業開始 |
| 12月 9日 | 立山トンネル貫通 |
| 45年 7月 1日 | 富山～信濃大町間を「立山黒部アルペンルート」と命名 |
| 7月25日 | 立山ロープウェイ（黒部平～大観峰）営業開始 |
| 12月15日 | 一般自動車道 桂台～美女平間供用開始（TKA） |
| 46年 4月25日 | 立山トンネルバス（室堂～大観峰）営業開始 |
| 6月 1日 | 立山黒部アルペンルート全線開業 |
| 47年 8月28日 | 室堂ターミナルビル全館完成 |
| 9月 1日 | ホテル立山営業開始 |
| 54年10月 1日 | TKKとTKAが合併 |
| 61年 4月11日 | 宇奈月国際ホテル新築工事着工 |
| 62年 9月21日 | 宇奈月国際ホテル営業開始 |
| 平成 2年10月 1日 | 立山黒部サービス株式会社（TKS）設立（資本金1億円） |
| 3年10月11日 | 弥陀ヶ原ホテル改築のため閉館 |
| 6年 7月12日 | 弥陀ヶ原ホテル改築営業開始 |
| 12年 4月 1日 | 弥陀ヶ原ホテルTKRから経営受託 |
| 17年10月 1日 | TKKとTKRが合併 （存続会社 立山黒部貫光株式会社） |
| 21年 4月 1日 | 宇奈月国際ホテルTKKから経営受託 |

ご案内 -今春、3館ともにホームページをリニューアルいたしました-

立山黒部アルペンルート



40
ANNIVERSARY
ALPEN-ROUTE

ホテル立山

〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦峯寺室堂

☎ (076) 463-3345 FAX (076) 463-3348

<http://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>



弥陀ヶ原ホテル

〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦峯寺弥陀ヶ原

☎ (076) 442-2222 FAX (076) 442-2242

<http://midagahara.alpen-route.co.jp/>

宇奈月温泉



黒部峡谷宇奈月温泉
宇奈月国際ホテル

〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉7-26

☎ (0765) 62-1236 FAX (0765) 62-1808

<http://unazukikokusai.alpen-route.co.jp/>

(編集・発行) 立山貫光ターミナル株式会社

〒930-8558 富山県富山市桜町1-1-36

☎ (076) 441-3331 (代表) FAX (076) 432-9056